

福 社

1 学習指導と評価の改善・充実

(1) 目標と指導内容との関連を十分に図った指導計画の作成

現在、高等学校には多様な特性をもった生徒が在籍しており、進路希望や興味・関心が多様化する中、全ての生徒に確かな学力を身に付けさせるためには、適切な目標を設定して日々指導を工夫するとともに、生徒の実現状況を確実に把握して、さらにその後の指導に生かすことが必要である。

学習指導と学習評価を一体的に行うことは、生徒一人一人に学習内容の確実な定着を図り、授業の改善に寄与する学習評価を行う上で重要である。また、学習評価の前提となる指導と評価の計画や、観点に対応した生徒一人一人の学習状況を生徒や保護者に適切に伝えていくなど、学習評価の一層の改善が重要である。

さらに、学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや学校における教育活動を組織として改善することが重要であり、新しい学習指導要領の下での学習評価の改善を図っていくためには、目標に準拠した評価と観点別学習状況の評価を着実に実施することが必要である。

(2) 学習評価を通じた学習指導の在り方の検証と指導の改善・充実

学習評価は、生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能を有するものである。したがって、学校が地域や生徒の実態を踏まえて設定した観点別学習状況の評価規準や評価方法を明示するとともに、それらに基づき学校において適切な評価を行うことなどにより、質の保証を図ることが求められる。

次に示す事例は、評価の観点の趣旨を踏まえた指導と評価の計画である。

【科目「社会福祉基礎」の事例 単元名「外国における社会福祉」】

科目名	社会福祉基礎		
単元名	(3) 社会福祉思想の流れと福祉社会への展望 ア 外国における社会福祉		
単元の目標	諸外国の社会福祉思想の流れを取り扱い、どのような歴史的経過を経て社会福祉が成立してきたのか、諸外国の社会福祉思想の歴史と発展について理解させる。		
次 程 ねらい	第一次 (3時間)	ヨーロッパの社会福祉 (社会福祉のはじまりと英国での社会福祉の発展)	各国における初期の社会福祉や英国の救貧法制定から民間社会事業の展開、福祉国家体制の歴史について理解を深める。
	第二次 (2時間)	ヨーロッパの社会福祉 (スウェーデンなど北欧の福祉国家の形成と発展)	先進的な社会福祉制度やノーマライゼーションの理念の形成過程などを調べまとめることを通して、社会福祉思想の発展についての理解を深める。
	第三次 (1時間)	アメリカ合衆国の社会福祉 (民間社会事業の先駆と世界初の社会保障法)	慈善組織化運動の発展やその意義・重要性について、メアリー＝リッチモンドの活躍を考察することを通して理解を深める。

	第四次 (1時間)	アメリカ合衆国の社会福祉 (最近の社会福祉の動向)	公民権運動や自立生活運動の取組と障害をもつアメリカ人法の成立の意義について理解を深める。
	第五次 (1時間)	アジアの社会福祉 (アジアの少子高齢化と社会福祉の課題)	アジア諸国の社会福祉の現状を通して、福祉の課題や発展途上国への支援の在り方について理解を深める。
観点	学習活動に即した評価規準		「努力を要する」状況(C)と判断した生徒への指導の手立て
関心 意欲 態度	相互扶助や慈善事業の実施主体や実施内容の理解を通して、問題点に関心を持ち、各国の組織的社会事業にどのように結びついたのかをまとめている。(第一次)		相互扶助や慈善事業は、個人の自発的な活動によって支えられていることなど用語を丁寧に分かりやすく解説し、問題点に気付かせる工夫を行う。
思考 判断 表現	公民権運動が障害者差別禁止につながり、その後の自立生活運動に発展し、障害をもつアメリカ人法が成立した過程を理解した上で、現在の社会福祉に与えているバリアフリー社会の実現などにどうつながっているかについて、討論を通して思考を深め、それを踏まえた考えを表現している。(第四次)		公民権運動の具体的な取組や自立生活運動の具体的な取組を示すことで興味を喚起し、障害をもつアメリカ人法の成果を知らせることでその関連性に気付かせる。また、バリアフリーの具体的な現状を写真等で紹介することなどにより思考を促すなど工夫を行う。
技能	ノーマライゼーションの考え方など先進的な考え方や取組に関心を持ち、社会への活用場面についてまとめている。(第二次)		公共の施設でのバリアフリー化の状況や大規模施設から小規模施設等への変容を示すことで関心を促し、具体的な活用場面(多目的トイレの普及や駅のバリアフリー化)を示すことで興味を喚起する。
知識 理解	世界恐慌の影響による世界初の社会保障法成立過程について理解している。(第三次)		世界恐慌時の不況や貧困の状態を写真等を示し、具体的に想起させ、生活する上での困難な状況を解決する手段として何が必要か考えさせる工夫を行うことで理解を促す。

評価は観察、ワークシート、テスト、生徒レポートなどにより行う。ワークシートを「関心・意欲・態度」の観点で評価を行う場合には、ワークシートの記述の内容から課題に取り組む状況を踏まえて評価する。また、「思考・判断・表現」の観点で評価を行う場合には、ワークシートの記述の方法を工夫することで思考の過程が把握できるようにする。また、具体的かつ的確に課題を見だし、取り上げた課題について思考し、知識を基に判断した過程や結果を適切に評価しているかを評価する。ワークシートの例を次に示す。

〔配布プリント：ワークシート 1〕

【ヨーロッパの社会福祉（スウェーデンや北欧の社会福祉）】

〈1 次の表を完成させてみよう！〉

語彙	意味	具体的な物など
ノーマライゼーション	・障害の有る無しにかかわらず、一人の市民として権利が尊重される社会に向けて、社会福祉の原理としての普遍的な思想	・選挙の投票 ・映画館などの車椅子コーナー
バリアフリー	・高齢者や障害者等が自由に社会参加し、よりよく生きるために活動や交流の場を広げられるように障壁を取り除くという考え方 (物理的・社会的・制度的・心理的等)	・音の出る信号機 ・駅のエレベータ
ユニバーサルデザイン	・できる限り多くの人が年齢や能力の違いにかかわらず可能な限り使いやすい環境や製品のデザインを目指すという考え方	・シャンプーボトル ・お札

〈2 学校、及びその周辺などで上記の点が活かされていることなどをあげてみよう！〉

語彙	個人の意見	グループの意見
ノーマライゼーション	・多目的トイレ ・横断歩道のボタンの高さ	・ベビーカー用のエスカレータ ・エレベータ内の鏡
バリアフリー	・生徒玄関前のスロープ	・自動ドア ・手すり ・ノンステップバス ・音響式信号機
ユニバーサルデザイン	・カード	・音声案内 ・牛乳パック ・介護食品

〈3 町に出て、上記の点が活かされている場所を確認し、地図に描いてみよう！〉

〈4 町に出て、上記の点を今後生かせる場所を確認し、地図に描いてみよう！〉

〈5 全体を通して、考えたこと・気が付いたことなどを含めた感想〉

- ・車椅子に乗って町中に出てみると、いつも通っている見慣れた風景が全然違って見えた。
- ・道路の凸凹が、車椅子ではとてもつらい振動に感じた。
- ・コンビニにある上の段の商品に手が届かなかったので、困っている人を見かけたときには、積極的に声をかけていこうと思った。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

(1) 指導方法や指導体制の工夫改善による個に応じた指導の充実

教科「福祉」においては、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てる観点から、実践的・体験的な学習活動を通して、社会福祉に関する基礎的な知識と技術の習得を図るとともに、福祉社会の一員としての実践力を身に付けさせることを目標としており、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的、体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決する学習活動を充実させることが重要である。しかし、社会福祉に関する知識・理解・考え方や実習技術の習熟の度合いなど、一人一人の生徒によって学習状況の違いが見られることから、一斉指導の他、個別指導やグループ別指導といった学習形態の導入、理解の状況に応じた繰り返し指導、学習内容の理解や習熟の程度に応じた指導、生徒の興味・関心に応じた課題に取り組む学習など、生徒の実態や指導の場面に応じ、効果的な方法をとることが必要である。

(2) 学習指導要領のねらいに即した効果的な指導の実践事例

単元「介護の意義と役割」では、介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義と役割を理解し、介護を適切に行う態度を育成することが求められる。次に示す事例は、テキストによる知識の習得だけではなく、課題レポート作成、体験学習をとおり、自ら考え、表現し、他者の話を聴く力を身に付けることを目標とした計画である。

ア 指導と評価の計画

科目名	介護福祉基礎			
単元名	介護の意義と役割			
単元の目標	(1) 人間としての尊厳を保持するための介護の必要性について理解させる。 (2) 人間の自立について考えさせ、自立のために介護の果たす役割や意義について理解させる。 (3) 国際生活機能分類やリハビリテーションの考え方について理解させる。			
評価の観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
内容のまとめ りごとの 評価規準	基本的人権や職業倫理に関心を持ちQOLの向上や、尊厳ある介護、利用者主体、自立支援のための介護サービス の在り方について意欲的に探究しようとしている。	QOLの向上、尊厳ある介護、利用者主体、自立支援について思考を深め、基礎的な知識と技術を基に判断し、その過程や結果について適切に表現している。	基本的人権と職業倫理に関する様々な資料や情報を収集して適切に選択して活用している。	QOLの向上、尊厳ある介護、利用者主体、自立支援など基本的人権、職業倫理について基礎的な知識を身に付け、介護の本質と生活の場における介護の特性を理解している。

具体的評価 規準	基本的人権について関 心を持ち、日常生活の 中に確立していく実践 としての介護を創造す る態度を身に付けてい る。	多様で個別的な生活支 援や利用者主体の考え 方とその具体的な取り 組みについて多角的に 考察し、表現している。	基本的人権に関する 様々な資料や情報を 収集して適切に選択 して活用している。	QOLの向上、尊厳ある 介護、利用者主体など 基礎的な知識を身に付 けている。			
次 程	学 習 活 動			評 価 の 観 点			
				関	思	技	知
第一次 尊厳を支え る介護 (8時間)	①～④講義「介護とは何か」「ノーマライゼーション」「利用者主体」 ⑤高齢者施設見学会事前指導「高齢者施設へ見学に行くにあたって」 ⑥⑦ <u>高齢者施設見学会</u> ⑧高齢者施設見学会レポート作成 ※「見学会のまとめ」			○		○	○
第二次 自立に向け た介護 (7時間)	⑨～⑬講義「自立支援とICF」「リハビリテーション」「職業倫理」 ⑭体験学習「身体拘束体験」 ⑮身体拘束体験レポート作成「体験レポートのまとめ、発表」			○		○	○

イ 高齢者施設見学会の具体例

次に、地域における高齢者施設との実践的な学習活動の具体例を示す。

目的	高齢者施設の現状を知るとともに、個々の利用者のニーズに対応してどのようなサービスが提供されているのかを学び、これから福祉を学んでいく1年生に対しての福祉観を醸成する一助とする。	
指導上の 注意点	事前指導 (5時間目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者施設見学会を通して施設の概要や支援内容、そこで働く専門職、入所されている方の生活について理解を深めることが目的であることを指導する。 ・ 見学する2施設（特別養護老人ホーム、養護老人ホーム）について各自で調べさせる。 ・ グループに分かれて質問内容を整理させる。
	施設訪問 (6・7時間目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身だしなみを整えさせる。 ・ 正しい敬語、態度で見学し、職員の方や利用者の方と関わるように指導する。
	事後指導 (8時間目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見学会で学んだことや質問内容を踏まえてレポートを作成させる。 ・ 施設へ提出する。

ウ レポートの具体例

高齢者施設の特徴や役割及び施設入所者の支援のために必要なことについてまとめたレポートの具体例を次に示す。

第1学年 町内高齢者施設見学会 レポート

番 氏名 _____

1. 施設長様の講話（お話から理解したことや感じたことを書いてください。）

養護老人ホームは、経済的な理由や家庭環境などにより在宅で生活ができない人が、特別養護老人ホームでは、常時介護が必要な人が利用する施設ということが理解できました。

2. 施設内の工夫

夫婦部屋があり、夫婦で入所できるようになっていたり、車いすの人でも利用しやすいように洗面台の下に空間があったり、鏡が斜めに設置されていました。

3. 利用者様の様子

他の入所者の方とテレビを見たり、お話をされていたり、養護老人ホームでは、自分の部屋で趣味の手芸をされている方もいました。笑顔で「とても良い所だよ」とおっしゃっていました。

4. 職員の方の様子

私たちの案内中に利用者様と会う度に、はっきりとした声で利用者様にわかりやすいようにゆっくりとした口調で挨拶をしたり、私たちのことを紹介していました。常に利用者様に声をかけ、体調を伺ったりしていました。

5. 施設見学会全体を通しての感想

利用者様たちは元気で明るく、施設全体が温かい雰囲気でした。お好み昼食会では利用者様一人一人のお好みの料理を食べていただき、食事を楽しんでいただくという工夫がされていて、本当に利用者様一人一人を大切にされていると感じました。

エ レポートの評価の具体例

生徒レポートについては、「思考・判断・表現」の観点の評価に用いる。

観点	学習活動に即した評価規準	「十分満足できる」状況 (A)と判断した具体例	「努力を要する」状況 (C)と判断した生徒への指導の手だて
思考・判断・表現	高齢者施設の特徴や役割及び施設入所者の支援のために必要なことについてまとめている。	事前学習で得た知識を踏まえて見学会に参加し、実際の介護現場を見学し考察したことが項目ごとにしっかりとまとめられている。	事前学習が不十分であり、考察したことが項目ごとにまとめられていない場合。 <ul style="list-style-type: none"> 見学施設の概要について振り返りを行う。 見学では何を見たのか、学校や自宅の環境と違うところは何かを書き出す。 項目ごとに整理し、まとめさせる。

オ 単元全体を通して期待する成果

- ・見学会を通して学んだことを整理、発表させることにより、表現力等の向上が期待できる。
- ・発表内容の評価を生徒同士が行うことで、客観的な視点を養うことができる。また、多角的に視野が拡大することが期待できる。
- ・施設生活を送られている入所者やそこで働く介護士の様子を見学することにより、介護という仕事について関心を深めることができる。
- ・基本的人権や自立支援など、介護実習に臨むに当たって必要な態度を備える一助とすることができる。